

びわこ地球市民の森

Vol.25

# 森づくりサポーターニュース

平成20年(2008)7月1日発行

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0101 守山市今浜町3089 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312  
メールアドレス moridukuri@ex.biwa.ne.jp URL http://www.ex.biwa.ne.jp/~moridukuri/

## “『未来の森』をまぶたに感じよう”を合い言葉に びわこ地球市民の森のつどい2008 が開催されました



記念植樹用の苗木を投下して  
いただいたパラグライダーの飛行



守山緑の少年団の皆さんによる宣言

4月19日(土)、「びわこ地球市民の森」の「出会いのゾーン」で、年に一度の「植樹まつり」ともいえる「森のつどい2008」が行われました。

このつどいに参加したいと思う方々の期待と実行委員会・スタッフの方々の熱意に脱帽したかのように前日まで雨をもたらしていた雨雲もどこかに消え去ってしまい、当日は春らしい好天に恵まれました。

参加者も例年になく多く、守山市民をはじめ県内外の方々、森づくりサポーターの皆さん、ガールスカウトや緑の少年団の子供達など2千人のみなさんが参加され、みんなで「未来の森をまぶたに感じよう」を合い言葉に、クヌギやコナラ、エドヒガンザクラ、ウリハダカエデなど10種類の落葉樹、アセビやシャシャンポなどの3種類の常緑樹の苗木、あわせて3千3百本を新たに植えていただきました。



キャラクター（滋賀のウォータン、  
森の妖精モリゾーとキッコロ）もやってきました

# びわこ地球市民の森のつどい2008



人気者の動物たち クロヤギさんとアヒルさん



野球少年も楽しそう



森の音楽会

2001年に「びわこ地球市民の森」の植樹が始まって8年目、3つのゾーン（つどい、ふれあい、出会い）の約18ヘクタールが整備され、今回の「森のつどい」まで植えられた苗木はちょうど8万本になりました。最初に植えられた苗木は、もう5メートル以上の高さに生長したものもあり、少しずつですが将来の森の姿が見えてきました。

今回のつどいの開会式では、例年に比べていろいろな趣向が凝らされていました。

ひなぎく保育園の園児の可愛い遊戯で始まったオープニングに続き、守山市緑の少年団による元気な「森づくり宣言」がされた後、悠久と空を飛ぶパラグライダーのグループの協力のもと、空から苗木を投下するという演出がありました。「いのち」は「天」からの授かり物であることを想いつつ、太陽を浴びながら森がすくすく育つようにとの願いが込められていました。

一斉植樹のあと、飲食物や工作体験など30程のイベントブースが開店し、「体験」のブースではクイズ形式の自然観察ラリーおもしろ自転車の体験なども行われました。

森づくりサポーターの皆さんには、植樹の際の指導や自然観察クイズラリーにお手伝をしていただきました。

また、ふれあい動物園や守山市民吹奏楽団などによる野外演奏会などの催しが行われました。参加された皆さんには、親子で森のピクニックを楽しんだり、さわやかな春風に乗って流れる演奏に耳を傾けたり、思い思いの春のひとときを楽しんでいました。

## カイガラムシ ..... ③

### ◆生まれてすぐに足が退化する不思議な虫

今回は、カイガラムシです。

カイガラムシは、昆虫の仲間で、分類上は半翅目（はんしもく）に属します。セミ、カメムシが仲間で、いずれも針状の口があり、それを葉や枝に差し込み、樹液を吸います。

「日本原色カイガラムシ図鑑」（全国農村教育協会：絶版）には、約400種類が掲載されており、白い口ウ状の甲羅（こうら）をかぶったもの、まん丸でつるつるした甲羅をかぶったもの、白い粉をかぶったもの、甲羅がなく裸のものなど大小さまざまなものがあります。

カイガラムシは、葉のうらにも付きますが、どちらかというと枝に多くつきます。枝の樹皮の内側には、葉の光合成の働きでつくられた養分（糖）が通る師管（しかん）という細胞の管（くだ）があり、枝に付くカイガラムシは、針状の口をそこに突き刺し、甘い樹液を吸います。そのため、カイガラムシは、お尻からも油状の甘い汁（甘露）を排泄します。

カイガラムシが付いた木には、蟻（あり）がたくさんいたりきたりしています。蟻は、カイガラムシの甘い排泄物をもらう代わりにカイガラムシの体をきれいにし、外敵からカイガラムシを守っています。



ツノロウカイガラムシ（ふれあいゾーン）

普通カイガラムシは、春に甲羅の内側で数百個の卵を産み、卵からかえった小さな幼虫は、甲羅のしたからはい出して、気に入った場所へ移動し、針状の口を突き刺して樹液を吸い始めます。その後、体から分泌物をだして体を甲羅で覆い、この時期に足が退化して動けなくなってしまいます。暗い甲羅のなかでじっと一生樹液を吸い続けます。

カイガラムシのなかには、少数ですが、写真のイセリアカイガラムシのように丈夫な足で一生歩き回る種類もあります。



足のあるイセリアカイガラムシ  
(ふれあいゾーン)



カイガラムシですす病が発生した  
クロガネモチ（ふれあいゾーン）

カイガラムシが付くと木は、樹液を吸われ衰弱します。また、カイガラムシの排泄物にスズ病菌が繁殖し、木が黒く汚れて見苦しくなります。

防除は甲羅をかぶっていて薬剤がききにくいため、めんどうですが、使い古した歯ブラシなどでかき落とす方法が一番効果的です。

# 森づくりトピックス



## 森の野鳥

野鳥はとても身近な生き物です。一年を通して見られ、可愛いさえずりを聞くとどんな鳥が鳴いているのかと気になります。

びわこ地球市民の森で今年になって見られて、写真を撮ることができた野鳥を紹介します。季節や環境で上手に住み分けて暮らしているようです。



### オオヨシキリ

#### スズメ目・ウグイス科

大きさは18cmくらい  
夏鳥としてやってくる  
ふれあいゾーンのヨシ原で  
「ギョギヨン・ギョギヨン・ケケケ」と大きな声でさえずっている



### カワラヒワ

#### スズメ目・アトリ科

大きさは15cmくらい  
飛びと翼と尾の黄色が目立つ  
地上や草の上で草の実を食べる  
繁殖期には「キュキュキュ」「キリリリ」と可愛い声で鳴く



### ツグミ

#### スズメ目・ツグミ科

大きさは24cmくらい  
マユのあたりが白い  
おなか側は白っぽく、黒いウロコ模様がある  
地上を歩きながら食物を探し、時々立ち止ま  
っては翼を下げ、胸をそらせるポーズをとる



### ホオジロ

#### スズメ目・ホオジロ科

大きさは17cmくらい  
顔は白と黒の模様  
繁殖期には木の梢や枝先にとまって「チ  
ヨッピーチチロ、ビビロビー」と澄んだ  
声でさえずる



### ムクドリ

#### スズメ目・ムクドリ科

黒っぽい体で大きさは24cmくらい  
クチバシと足がオレンジ色で目立つ  
「ジュ」「ジュル」「ギル」という鳴き声

## お知らせ

### 第2回 森づくりセンター活動

平成20年度第2回目の森づくりセンター活動を実施します。

森にあふれるすがすがしい香り(フィトンチッド)のなかで、心地よい汗を流しましょう。多数の参加をお待ちしています。

実施期日 平成20年7月26日(土)

開催場所 びわこ地球市民の森

内 容 植栽地の管理作業と自然教室

H20.6.30現在	
植栽面積	39,841m <sup>2</sup>
参加者数	24,150人
植栽本数	80,181本
(つどいゾーン)	23,328本
(ふれあいゾーン)	35,695本
(出会いゾーン)	21,158本

### 編 集 後 記

森づくりセンター横にある2002年4月植栽のクヌギの木（右写真）の樹高が6mに達しました。

すくすくと生長しておりあと5年もすれば10mを越えそうです。



Vol.26

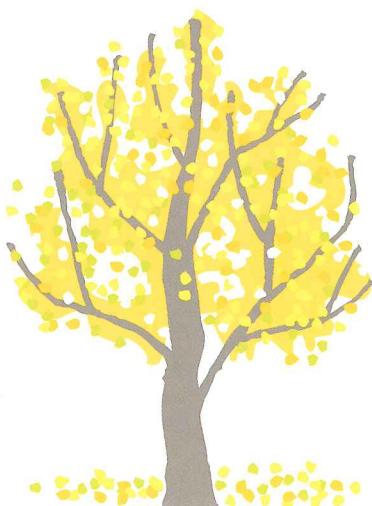
# 森づくりサポーターニュース

平成20年(2008)10月1日発行

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0101 守山市今浜町3089 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312  
メールアドレス moridukuri@ex.biwa.ne.jp URL <http://www.ex.biwa.ne.jp/~moridukuri/>

## 猛暑にめげず、サポーター活動!!



今年は例年になく、暑さが厳しく、梅雨明けから猛暑が続きました。この夏、関西では気温が軒並み35度、36度、果ては体温を超える日が多くなって、これも地球温暖化がなせるシワザのように感じられました。地球温暖化防止対策では、まずは発生源対策が要ということで、世界中でいろいろ取り組みが始まっていますが、一方では炭酸ガスを吸収する水（海）とは別に、森林を育てて大気中の炭酸ガスを構成する炭素を樹体に変えて固定させようとの取り組みも始まっています。もっとも、熱帯雨林の伐採や火災で失われている森林の方が桁違いに多いのも問題といえるでしょう。

けれど「気は心」とか言いますね。これを「木を心として」いろいろな地域で植樹の取り組みが広がっていけば、それなりの効果も期待できますし、また、地域の風景や新しい自然の生態系の形成にも貢献していくことになります。

ところで、夏涼しく少雨のヨーロッパと違い、春から夏にかけて高温多雨の日本では「びわこ地球市民の森」のように更地に苗木を植えたような場所では雑草（その多くは外来種のようですね。）が繁茂します。また、放っておくとクズやイバラが勝手に入ってきてとても人が入れるような森や林になりません。

そこで、苗木が雑草の日陰にならないようにするために、植樹後3～4年は森づくりの最大の作業はクズやイバラも含めた雑草対策ということになります。また、この雑草対策も兼ねて、最初は苗木を密植するので、3～4年も経つと枝と枝がからまり、お互いに日射を奪い合ってモヤシ状態での生長になるため、適宜枝落としや間引きが必要となります。

遠くから眺めるだけでなく、人と自然がふれあえる森づくりには、こうしたいろいろな作業が不可欠になります。

「びわこ地球市民の森」では、植樹だけではなく、こうした森を育てるためのさまざまな活動をサポーターの皆様にお願いしています。

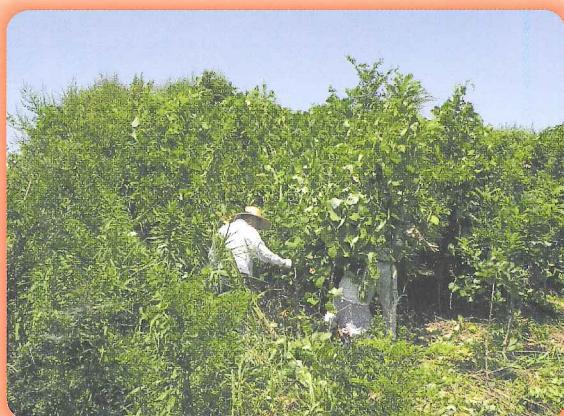
さて、今年は猛暑の最中、7月26日に「びわこ地球市民の森」で今年度2回目の「森づくりサポーター活動」が行われました。

炎天下の行事とはいえ、いつも以上に多く（124名）のサポーターの参加のもとに、森づくりの活動に取り組みました。

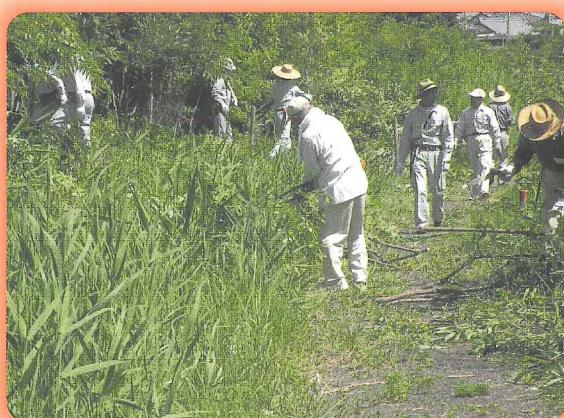
今回は、2004年に「ふれあいゾーン」で植樹をした地区の間伐と枝打ちの作業をしました。

イラガにも気をつけながらの作業でしたが、猛暑のなか戦苦闘の作業でした。

また、ガールスカウトの皆さんには、「竹のお話」を聴いたあと、マダケでの「一輪ざし」づくりと森づくりセンター近くの築山でシイタケのホダ木の天地替えをしたり、苗畠のドングリの植え替えをしました。猛暑のなか、本当にご苦労さまでした。



植栽後4年目、こんな状態でした。



森を育てる懸命な作業です。



こんなにスッキリしました。



シイタケのホダ木天地返しです。



苗畠のドングリの植え替え



最後のアトラクション（子供達によるスイカ割り）

## アブラムシ ..... ④

### ◆不思議な虫こぶをつくる森の芸術家

今回は、アブラムシです。

アブラムシも昆虫の仲間で、分類上は前号で紹介したカイガラムシと同様に半翅目（はんしもく）に属します。針状の口があり、それを葉や枝に差し込み、樹液を吸います。体長は2~4mm程度で小さく、弱々しい虫ですが、雌が卵ではなく幼虫を直接生み、毎日数匹から数十匹の子供を産むため、どんどん増えます。

アブラムシは、樹木の新しい枝や葉裏にたくさん群がって樹液を吸うので、新梢がしおれてたり、枯れたりすることがあります。樹液が甘いため、アブラムシの排泄物（甘露）も甘く、よく蟻（あり）がアブラムシの周りに集まって排泄物を餌にしています。その代わりに蟻は外敵からアブラムシを守り、共生関係を築いています。

アブラムシは非常に多くの種類がありますが、葉に虫こぶをつくる変わったアブラムシがいるので、ご紹介します。



エゴノネコアシアブラムシの虫こぶと本物の猫の足

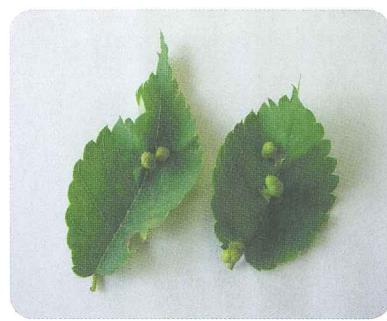


上の写真は、エゴノキの若枝の先端にできた「エゴノネコアシアブラムシ」の虫こぶです。6月上旬に「ふれあいゾーン」で見つけました。バナナの房のような形をした不思議な虫こぶで、実のようにも見えますが、なかにアブラムシが入っています。本物の猫の足と比べてみるとその名のように似ています。

一般的にこぶをつくる種類のアブラムシでは、新葉の裏にアブラムシがとりついて樹液を吸い出すとその刺激で葉が葉表にふくれだしてこぶをつくり、アブラムシはこぶに包み込まれてしまいます。こぶのなかのアブラムシは、外敵に襲われる心配が無く、こぶのなかで子供をどんどん産み、こぶの中がアブラムシで一杯になるとこぶを破って外へ出てきます。

右の写真は、つどいのゾーンで見つけたケヤキフシアブラムシの虫こぶです。一つの虫こぶを割ってみると中から10匹ほどのアブラムシが出てきました。

虫こぶをつくるタイプのアブラムシには農薬が効きません。防除する方法は、虫こぶのついた葉を処分するしかありませんが、エゴノネコアシアブラムシの虫こぶなら、残しておきたい気がします。（「緑化木・林木の害虫：養賢堂」を参考にしました。）



ケヤキフシアブラムシの虫こぶ

# 森づくりトピックス

## コブシ(モクレン科)の実

早春の白い花が咲いているとき以外は気にもとめないコブシですが、いま、面白い形の実をつけています。でこぼこした実がつき、形も不ぞろいで垂れてついています。8月ごろはピンク色をしていますが、だんだん赤くなり、熟して鞘(さや)が割れると赤い種が入っています。9月ごろになると赤い種は白い糸にぶら下がり、さらに赤い種は割れて中には黒いタネが二つ入っています。



## お知らせ

### 第3回 森づくりサポーター活動

実施期日 平成 20 年 10 月 11 日(土)

たくさんの参加をお待ちしています。



活動内容 間伐・枝落とし・ドングリ苗の植えかえ

その他 当日は、森の横で今浜自治会の「コスモス祭り」が開催され、  
サポーターの皆さんも参加していただきます。

2008.9.30現在	
植栽面積	39,841m <sup>2</sup>
参加者数	24,150人
植栽本数	80,181本
(つどいのゾーン)	23,328本
(ふれあいゾーン)	35,695本
(出会いのゾーン)	21,158本

## 編集後記

今年3月のサポーター活動で、ガールスカウトのみなさんが菌を打ったシイタケほど木は、順調にシイタケ菌がまわっています。写真のようにほど木がシイタケ菌で白くなってきました。

来春には、初めてのシイタケが顔をみせてくれるかも知れません。



# 森づくりサポーターニュース

びわこ地球市民の森

Vol.27

平成21年(2009)1月1日発行

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0101 守山市今浜町3089 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312  
メールアドレス moridukuri@ex.biwa.ne.jp URL <http://www.ex.biwa.ne.jp/~moridukuri/>

## 昨年の秋から 「里の森ゾーン」で 植樹が始まりました。

晩秋になると、落葉樹は紅(黄)葉・落葉し、常緑樹も樹木の生長休止期になるので、樹木の植栽・移植の適期になります。「びわこ地球市民の森」にあっても、10月下旬から11月にかけて今年度秋期の植樹が行われました。

平成13年(2001年)から「つどいのゾーン」で始まった植樹は、その後「ふれあいゾーン」、「出会いのゾーン」での植樹を終え、昨年の秋から植樹の場所は平成19年度から造成事業がはじまった「里の森ゾーン」に移ってきました。

「里の森ゾーン」は、この森で一番巾も広く(最大200mほどあります)、面積も12.9haと他のゾーンより広く、植樹帯の巾も一番広いゾーンです。これから4年程はこのゾーンが植樹の場となります。

昨年秋には、この「里の森ゾーン」で企業、団体の皆さん、また個人も含め26件もの植樹活動があり、2,635の方々に16,491本の苗木を植えていただきました。



「里の森ゾーン」では、今年度、造成工事が残っていた約4haも含め、基盤整備(土壌改良、園路広場、排水施設、公衆トイレ等)が着々と進んでいます。

現地を見ていただくと、今はだだっ広い造成地がただ広がっているだけのように見えますが、芝生広場や駐車場等を除いて、もう数年たてば植えられた苗木の「みどり」で埋め尽くされ、それらがそよ風になびく光景が見られるでしょう。

また、このゾーンが完成されると、「つどいのゾーン」から「出会いのゾーン」まで約2.5kmの一連の森が結ばれ、残りは一番琵琶湖に近い地区「ふるさとゾーン」となります。

ところで、苗木を植えてから3~4年は森づくりの最大の作業は雑草対策ということになります。この雑草対策も兼ねて最初は苗木を密植をすることで、3~4年も経つと枝と枝がからまつてくるため適宜枝落としや間引きが必要となります。

遠くから眺めるだけでなく、人と自然がふれあえる森づくりには、こうしたいろいろな作業が不可欠です。

「びわこ地球市民の森」では、サポーターの皆様をはじめ、ボランティア活動をしてくださる方にこの森を育てる活動をお願いしています。

さて、昨年の10月11日に今年度3回目の「森づくりサポーター活動」が行われました。(写真①②③④)

今回は、「ふれあい池」のある2003年に植樹がされた「ふれあいゾーン」において、ほとんど手入れをしていなかった地区の枝落としや間伐をしました。おかげで雑草や混みいった枝も除去され、すっきりした風通しの良い林となりました。



①サポータ活動のオープニング

また、ガールスカウトでは「苗畠」でのドングリの種まきと苗の植え替えをしました。(写真⑤)

また、時を同じくして、この森に隣接する小広場で今浜町の自治会が「コスモス祭り」を開催していましたが、お昼に「豚汁」のふるまいがあり、サポート活動の参加者もそのお相伴にあずかりました。

好天に恵まれ、心地良い汗もかいた、さわやかな秋の一日でした。



②植栽後5年目、こんな状態でした



③森を育てる懸命な作業です



④こんなにスッキリしました



⑤苗畠のドングリ苗の植え替え



⑥自然学習に熱心に聞き入る子どもたち

# 「てんぐ巣病」 ..... ⑤

## ◆サクラにとって怖い病気

今回からは害虫に代わって、樹木の代表的な病気を紹介します。病気の1回目は、「てんぐ巣病」です。

樹木（サクラ、ツツジ、シイ、キリ、モミなど）や竹の茎・枝が異常に密生して巣のような形になります。日本ではこの名前がついていますが、外国では、「魔女のほうき」と呼ぶところもあります。どちらも特徴をよくあらわしています。

よく知られているのはサクラの「てんぐ巣病」で、各地のサクラの名所に植栽されているソメイヨシノに被害が多発しています。園芸種（エドヒガンザクラとオオシマザクラの交雑種）であるソメイヨシノは、生長が早く大きく育ち、枝を一杯に広げて花を枝の隅々まで咲かせます。

豪華なので、好まれて各地に植栽されてきましたが、「てんぐ巣病」にかかりやすい欠点があります。このため「てんぐ巣病」の被害をうけたソメイヨシノは、寿命が70年前後と非常に短くなります。

マキノの湖岸のサクラ並木や長浜の豊公園など県内のサクラの名所で今「てんぐ巣病」が多発し、そこに植栽されているソメイヨシノの衰退が進んでいます。

この病気は、糸状菌（カビ）の一種によっておこる伝染病で、花の終わった4月中旬～5月上旬に病巣部の葉が褐色にちぢれ、その裏に病原菌の胞子（ほうし）が大量に形成され、この胞子が飛散して樹全体あるいは周辺のサクラに伝染します。

薬剤による防除方法は確立されていないため、防除は、落葉した冬から春の花が咲く前に、病巣部を幹・枝際から切り落とし、胞子が飛ばないように焼却するか地中に埋める方法をとります。しかし、被害の発見が遅れ、樹が大きくなってしまった場合、樹の上部にできた病巣を取り除くことは困難で、ついつい被害が放置されて病巣部が拡大し、衰退が進んでしまいます。



▲ソメイヨシノのテング巣病枝（栗東市金勝）▲

「てんぐ巣病」の枝には、花芽がつかず花が咲かないし、健全な枝の開花時期に葉を開くので非常に見苦しくなります。昔から“サクラ切る馬鹿ウメ切らぬ馬鹿”といいますが、「てんぐ巣」の枝をつけたらできるだけ早く切除して処理してください。葉のあるときは見つけにくいですが、落葉後によく樹を観察すると、てんぐ巣病の枝は元の方がふくらんでいて、下に垂れ下がったような形をしているのでよく解ります。

「びわこ地球市民の森」では、たくさんのサクラ苗木を植栽していますが、「てんぐ巣病」に抵抗力が強く、寿命が数百年と長い郷土樹種のヤマザクラやエドヒガンザクラあるいはウワミズザクラを植栽しています。

（「庭木・花木・林木の病害」：養賢堂を参考にしました。）

# 森づくりトピックス



## こんな木々も森づくりへ仲間入り！

「びわこ地球市民の森」ではクヌギやコナラ、スダジイ、エノキ、ヤマモミジ、ヤマザクラ、アラカシなど約80種類の樹木が植樹されています。

昨年の秋は珍しい名前のカクレミノや葉の形に特徴があるセンダン、縁起が良いというナギ、良い香りのするヤブニッケイなどが植えられました。

### センダン

(センダン科 常緑高木)



幹はほぼ直立して丸い樹形になる。  
センダンの葉は2回羽状複葉と呼ばれる葉の形になる。  
初夏に白と紫の清楚な花が咲く。

### カクレミノ

(ウコギ科 常緑小高木～高木)



幹は直立。葉は互生するが、枝先で輪生となる。若木の時は5裂、成木になると3裂の葉と裂けない葉が混じる。

### ナギ

(マキ科 常緑高木)



幹は橙色を帯びて、樹皮がまだら模様にはがれる。  
葉は対生で光沢があり、葉脈は細くて平行になる。  
マツなどと同じ針葉樹の仲間であるが、葉の幅が広く広葉樹のように見える。  
神木として神社などに植えられている。

### ヤブニッケイ

(クスノキ科 常緑高木)



葉は全縁で表面に光沢がある。  
葉脈が葉のつけ根ちかくで3本に分かれ  
る3行脈が特徴。葉はちぎるとよい香り  
がする。

(写真は「かのんの樹木図鑑」より、説明文は林将之著「葉で見わかる樹木」を参考にしました。)

## お知らせ

### 第4回 森づくりサポーター活動

早春の森をお楽しみください。たくさんのご参加お待ちしています。

**実施期日** 平成21年3月7日(土)

**活動内容** 間伐・枝落とし・シイタケの菌打ち



2008.12未現在

植栽面積	48,087m <sup>2</sup>
参加者数	26,691人
植栽本数	96,672本
(つどいのゾーン)	23,328本
(ふれあいゾーン)	35,695本
(出会いのゾーン)	21,158本
(里の森ゾーン)	16,491本

### 編集後記

2009年がスタートしましたが、森の中で、大変めずらしいものを見つけました。

森づくりセンター北側の竹藪のなかのエノキ（写真）に窓木（まどぎ）ができていました。1本の樹で幹や枝が完全にくっついて、まるで窓のように見えることから、昔から“窓木”と呼びます。めったに見られないため、大変縁起のよいものとされています。

縦5m、幅2mほどの巨大な窓木で、森にとっても森に関わっているみなさんにとっても幸運の前兆かも知れません。

